

清川村立緑中学校

研究テーマ：「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した指導方法の改善」

1、実践の目的

この研究テーマの設定の背景は、「個々のニーズに応じて、生徒の力を伸ばすよう指導・支援に努める。」「小規模校の利点を活かした指導方法等の工夫・改善に向けて、積極的に取り組み、すべての生徒が学力を身につけるよう努める。」という学校経営方針に基づいたものである。研究テーマに迫るためにサブテーマ①『「知識構成型ジグソー法」を活用した授業づくり』、②『配慮を要する生徒を想定した授業づくり(ユニバーサルデザイン)』、③『学校教育活動における人権に関する様々な活動を体系化していく』以上の3つのサブテーマの研究を、年間を通じて進めた。

2、実践の内容

サブテーマ①『「知識構成型ジグソー法」を活用した授業づくり』は、すべての教員が生徒にとっての「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した指導方法の改善、生徒同士が学び合う「協調学習」を引き起こす実践を意識してきた。

その中で、年間3回の授業研究により、効果的な指導の進め方について共有してきた。第1回目の校内研究会では、「知識構成型ジグソー法」を実際に職員が体験することにより、授業づくりや授業研究の進め方について一般社団法人教育デザイン研究所から講師を招き、学んだ。

第2・3回目の校内授業研究会では、「知識構成型ジグソー法」を活用した仮説検証型授業研究を行った。

「知識構成型ジグソー法」は、学習者それぞれが主体的に考えながら、他者との意見の共有を基に自分の考えを見直し、深めていくというものだ。

このような学びを起こすためには、生徒がどのように学ぶのか仮説を立てることが大切になる。そのために、授業前には授業者が他の教員に向けて、学びの仮説を説明した。その上で授業中には、生徒一人ひとりの学習の様子を教員が詳細に観察・記録した。

授業後の研究協議では、記録に基づいて生徒の学びの内容を分析し、研究授業における指導方法のあり方について協議した。その上で、各自が自身の指導方法について省察し、今後の具体的な指導改善を図る機会とした。



3、実践の成果

テーマに基づき、研究を進め、今年度は社会・外国語の2教科で「知識構成型ジグソー法」を展開の中に取り入れる形で研究授業を行った。

今年度の研究は、生徒がどのように学ぶのか仮説を立て、学びの実態を基にして授業改善を行うことを大切にしてきた。そのために、授業前には授業者が他の教員に向けて、学びの仮説を説明した上で、授業において生徒一人ひとりの学習の様子を他の教員が詳細に観察・記録し、研究授業後の協議で、記録に基づいて生徒の学びの内容を分析し、研究授業における指導方法のあり方について協議することができた。

今年度の研究を通して、教員が生徒の学びを予想し、実態に基づいて授業改善を行うことの大切さを実感できたことが一番の成果だと思う。実際に、「知識構成型ジグソー法」を単元の中で活用する際には、相互で授業参観を行い、職員室の中で議論が自然と生まれるなど職員の意識が向上したように感じる。

また、「知識構成型ジグソー法」を実践してみて、生徒同士が学び合う「協調学習」を引き起こすことの難しさを実感した。どのような資料を提供し、どのように話し合いを進め、ねらいに迫るのか。改めて、教員が生徒に何を学ばせたいのかを明確にしなければいけないという授業づくりの基礎・基本に立ち返ることもできた。

反省点として、年間を通じて全教員が高いモチベーションで今回の研究を進められたかという点が挙げられる。他の教員が、授業研究をする授業者に任せてしまいがちになっており、従来の授業研究と同様の意識のままであった面が見られた。

4、今後の展開

来年度も引き続き、「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した指導方法の改善」を研究テーマに設定し、同じく3つのサブテーマを基にして研究を進めていく。

来年度は、全職員でテーマに迫るための研究を高いモチベーションで進めて行くために、まず、この研究テーマの設定理由等をしっかりと共有を図り、目的を明確にした上で相互授業参観や授業に関する協議を行っていききたい。

今後も、生徒の「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、生徒の学びの実態に基づいて指導の工夫・改善を図っていききたいと考えている。

